

プラスチック連結釘 耐力試験データ

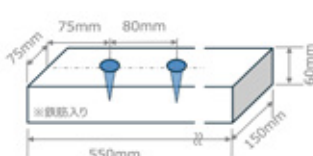
試験方法

上材を下地材に留め付け、下地材を固定した状態で上材を測定器で引っ張り、上材破断もしくはピン抜けが起こるまでの最大荷重[kN]を測定する。

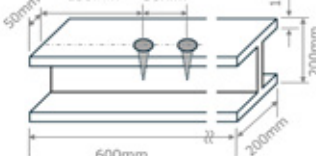
試験条件

コードレス釘打機 NC 1840DA、蓄電池BSL 36A18X、室温20℃環境、
深さ調整用アジャスタは沈む方（ピンが下地材側へより深く撃ち込まれる方向）に
設定、測定機器：エー・アンド・デイ社製 RTC-1350A

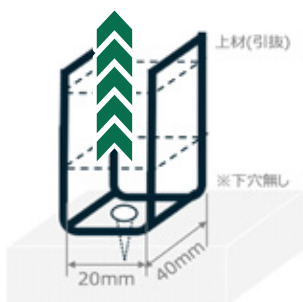
コンクリート



鋼材



引抜耐力試験結果



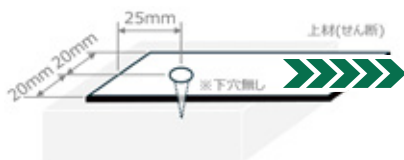
最大荷重平均値=試験本数の平均値

形名	下地材	上材	試験本数	破壊形態		最大荷重平均値 (kN)
	コンクリート(圧縮強度)	薄鋼板 SPCC(厚み)		上材破断(本)	ピン抜け(本)	
C2620-2	21N/mm ²	0.6mm	15本	10	5	2.19
		0.8mm	15本	1	14	2.82
		1.2mm	15本	0	15	2.43
		1.6mm	15本	0	15	2.39
		2.3mm	15本	0	15	2.09
C2625-2	21N/mm ²	0.6mm	15本	12	3	2.65
		0.8mm	15本	1	14	2.73
		1.2mm	15本	0	15	3.26
		1.6mm	15本	0	15	3.43
		2.3mm	15本	0	15	2.80
C3015M2	40N/mm ²	0.6mm	15本	7	8	2.33
		0.8mm	15本	0	15	2.35
		1.2mm	15本	0	15	2.20
		1.6mm	15本	0	15	1.55
		2.3mm	15本	0	15	1.81
C3022M2	40N/mm ²	0.6mm	15本	6	9	2.31
		0.8mm	15本	2	13	2.82
		1.2mm	15本	0	15	2.24
		1.6mm	15本	0	15	2.10
		2.3mm	15本	0	15	2.46

明らかにコンクリートに効いていないものは結果に含めない。

形名	下地材	上材	試験本数	破壊形態		最大荷重平均値 (kN)
	鋼材	薄鋼板 SPCC(厚み)		上材破断(本)	ピン抜け(本)	
C3015M2	H鋼 SS400	0.6mm	5本	5	0	2.48
		0.8mm	5本	3	2	3.26
		1.2mm	5本	0	5	3.89
		1.6mm	5本	0	5	4.15
		2.3mm	5本	0	5	5.63

せん断耐力試験結果



形名	下地材	上材	試験本数	破壊形態		最大荷重平均値 (kN)
	コンクリート(圧縮強度)	薄鋼板 SPCC(厚み)		上材破断(本)	ピン抜け(本)	
C2620-2	21N/mm ²	0.6mm	15本	15	0	1.97
		0.8mm	15本	15	0	3.04
		1.2mm	15本	0	15	3.74
		1.6mm	15本	0	15	3.99
		2.3mm	15本	0	15	3.92
C2625-2	21N/mm ²	0.6mm	15本	15	0	1.82
		0.8mm	15本	8	7	2.98
		1.2mm	15本	0	15	3.83
		1.6mm	15本	0	15	4.53
		2.3mm	15本	0	15	4.15
C3015M2	40N/mm ²	0.6mm	15本	15	0	1.82
		0.8mm	15本	4	11	3.03
		1.2mm	15本	0	15	2.63
		1.6mm	15本	0	15	3.51
		2.3mm	15本	0	15	2.72
C3022M2	40N/mm ²	0.6mm	15本	14	1	2.00
		0.8mm	15本	7	8	2.60
		1.2mm	15本	0	15	2.99
		1.6mm	15本	0	15	3.00
		2.3mm	15本	0	15	2.72

明らかにコンクリートに効いていないものは結果に含めない。

形名	下地材	上材	試験本数	破壊形態		最大荷重平均値 (kN)
	鋼材	薄鋼板 SPCC(厚み)		上材破断(本)	ピン抜け(本)	
C3015M2	H鋼 SS400	0.6mm	5本	5	0	2.29
		0.8mm	5本	5	0	3.66
		1.2mm	5本	3	2	5.55
		1.6mm	5本	0	5	5.47
		2.3mm	5本	0	5	5.06

(注) 上記試験結果は、すべて当社所定の試験条件における最大荷重[kN]の平均値であり、許容荷重ではありません。材料、施工条件、試験条件、環境条件などにより結果が異なる場合がありますのでご了承ください。実際のご使用にあたっては、使用環境などを踏まえ、許容荷重や安全率を使用者の責任においてご判断ください。